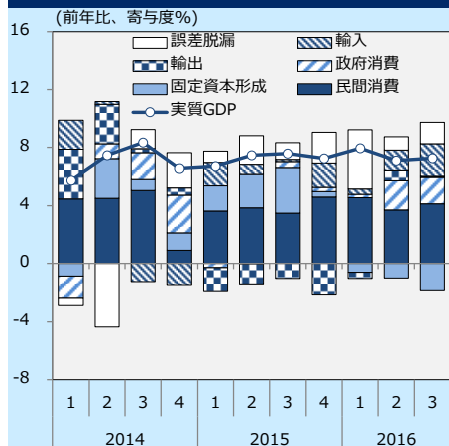


インド：GDP（2016年7-9月期） —高額紙幣廃止で先行きの成長率は下振れ—

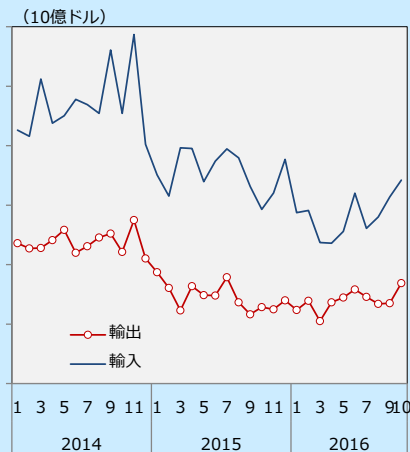
MRI Daily Economic Points December 1, 2016

実質GDP



注：輸出入は三菱総合研究所による季節調整値
資料：CEICより作成

輸出入

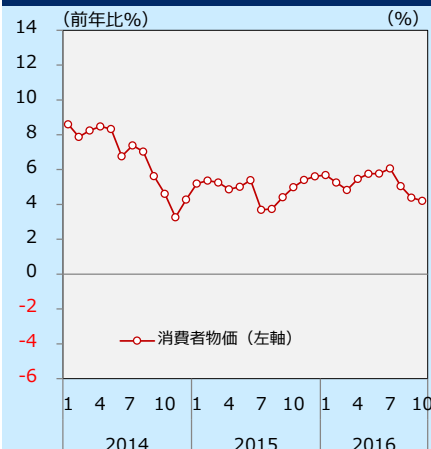


評価ポイント

今回の結果

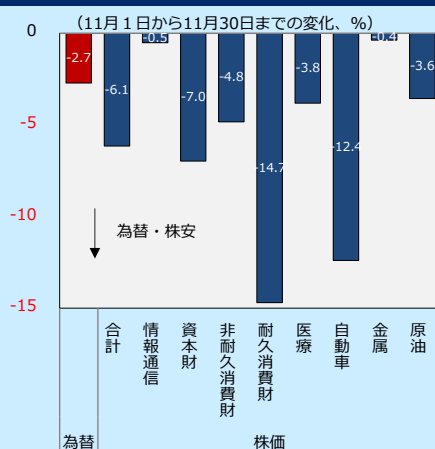
- 16年7-9月期のインドの実質GDPは、前年比+7.3%と前期(16年4-6月期：同+7.0%)から伸びがやや加速した。
- 民間消費が前年同期比+7.6%と高い伸びを続け、インド経済を牽引している。民間消費の高い伸びは、①天候の安定から農業所得が好調なことや、②物価上昇率が低位で安定していることに加え、③公務員給与の引上げが寄与している。政府は公務員給与を+23.6%引き上げることを決定、7月1日から支給を開始しており、7-9月期の民間消費拡大につながるとみられる。
- 輸出は前年同期比+0.3%と小幅ながら2四半期連続でプラスとなり、持ち直しの動きがみられている。品目別にみると、宝飾品の輸出が好調に推移している。国別にみると、原油価格の安定から中東やアフリカの所得環境が改善しており、これらの地域向けに輸出が持ち直している。
- 一方、固定資産投資は前年同期比▲1.8%と、3四半期連続で前年から減少した。金融機関の不良債権処理が続いており、金融機関の貸し出し姿勢の慎重化が続いている。

消費者物価指数



注：為替は対ドルレートを。株価はSENSEX指数。
資料：CEIC、Bloombergより作成

11月の為替と株価の変動



基調判断と今後の流れ

- インド経済は、堅調な民間消費を背景に緩やかに拡大しているが、先行きは、後述の高額紙幣廃止による混乱から、短期的には消費を中心に成長率が下振れする見込み。
- 11月8日、政府は中長期的な税収確保のため、高額紙幣の廃止を決定した。インドでは、富裕層が課税逃れのために現金で資産を蓄えており、この政策により中長期的な税収確保に一定の効果があるとみられている。しかしながら、旧紙幣の廃止が富裕層の消費を抑制させるほか、新紙幣の供給が滞っていることで富裕層以外の消費の落ち込みも懸念されている。
- 金融市場をみると、米国の長期金利上昇から為替が減価、株価も紙幣の不足による売上減少が見込まれている自動車など耐久消費財関連銘柄を中心に急落している。政府には、高額紙幣廃止による混乱を最小化し、税収の増加をインフラ拡充につなげるなど、中長期的な成長率向上につなげることができるかが問われている。